

(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
2023年 5月26 日	
枚方市長 殿	
提出者 住 所 愛知県半田市中村町二丁目 6 番地 氏 名 株式会社 M i z k a n 代表取締役 石垣 浩司 電話番号 0 5 6 9 - 2 1 - 3 3 3 1	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 M i z k a n 大阪工場
事業場の所在地	大阪府枚方市春日北町五丁目 1 番 1 号
計画期間	2 0 2 3 年 4 月 1 日 ~ 2 0 2 4 年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	0 9 : 食品製造業
②事業の規模	製品出荷額 : 7 , 2 7 8 百万円
③従業員数	1 6 7 人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1 を参照

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2を参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥他合計	
	排出量	13,329 t	t
	（これまでに実施した取組） 1) 動植物性残渣は、有価売却分の一部が産業廃棄物処理となったため増加。 2) 排水処理水槽の修繕工事等により有機汚泥が増加。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥他合計	
	排出量	13,736 t	t
	（今後実施する予定の取組） 1) 有機性汚泥は、排水処理（2相担体式）を、担体処理を優先させて状態を保持することで、汚泥発生を抑制します。 2) 動植物性残渣については、有価売却の継続と、有価売却先の新規開拓を引き続き取り組みます。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラ、金属くずは分別化回収後に資源ゴミとして有価売却
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 基本的には前年度取り組みを継続

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	（今後実施する予定の取組）		
自ら再生利用を行う予定はありません。			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	10,029 t	t
(これまでに実施した取組)			
排水処理水槽の修繕工事等により有機汚泥が増加。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	10,358 t	t
(今後実施する予定の取組)			
排水処理（2相担体式）管理の安定化に努め、汚泥発生量を抑えます。 オーダーメイド微生物製剤の検討を進め、汚泥発生量の削減をする。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う予定はありません。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	3,300 t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	2,119 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	2,869 t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	377 t	t
	(これまでに実施した取組) 1) 産業廃棄物の処分を委託する場合は肥料化・飼料化を優先し、 焼却は最終手段とする。 2) 委託先は優良認定企業を優先して選択します。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥他	
	全 処 理 委 託 量	3,413 t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1,903 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	3,230 t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	128 t	t
	(今後実施する予定の取組) 本年、生産量の増加を計画しており前年実績と比較すると 目標数値が増加となりますが、前年取り組みを継続し、 特に有価売却に戻し削減出来る様に取り組めます。		
※事務処理欄			

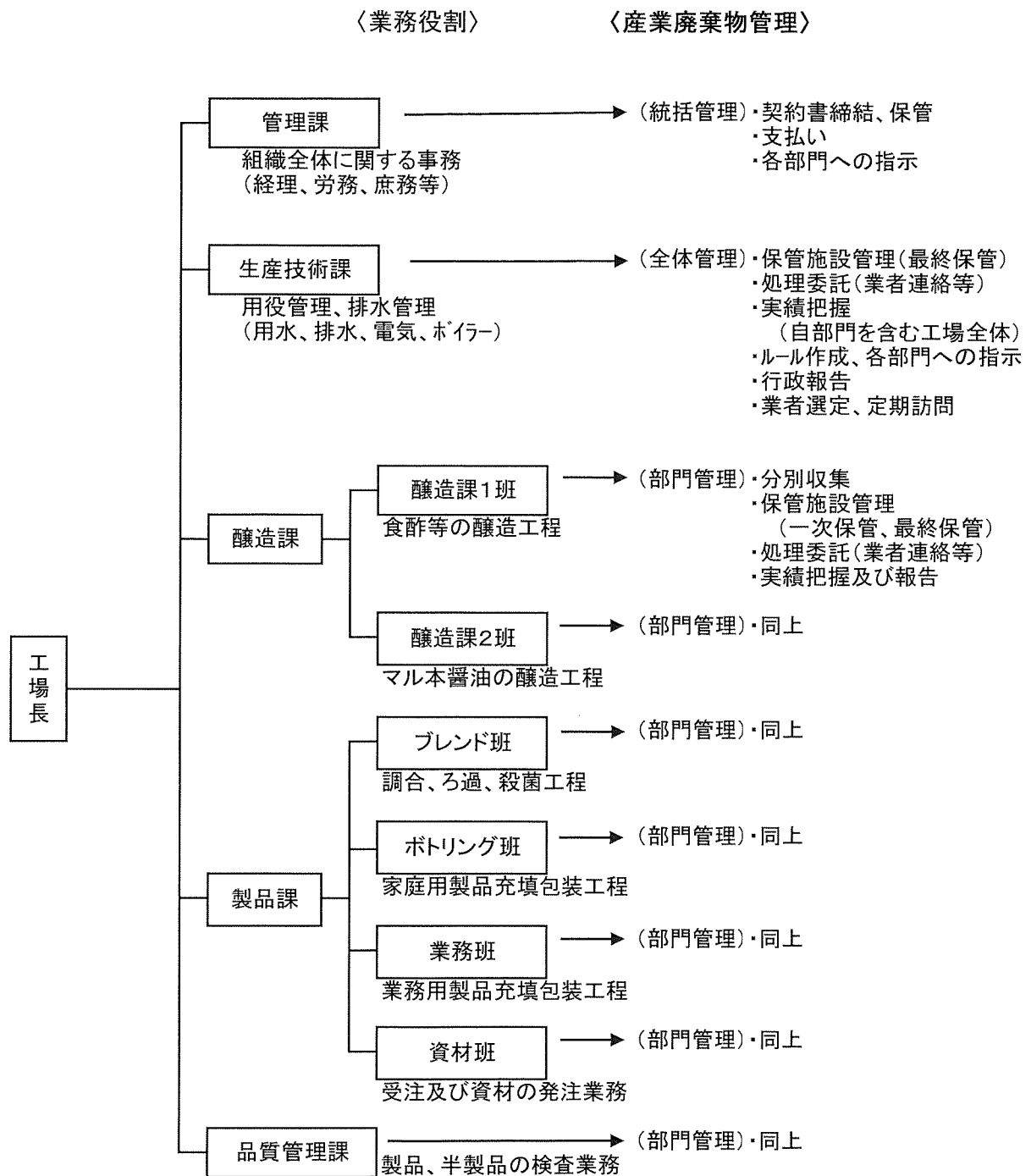
(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙2 【管理体制図】

(株)Mizkan 大阪工場



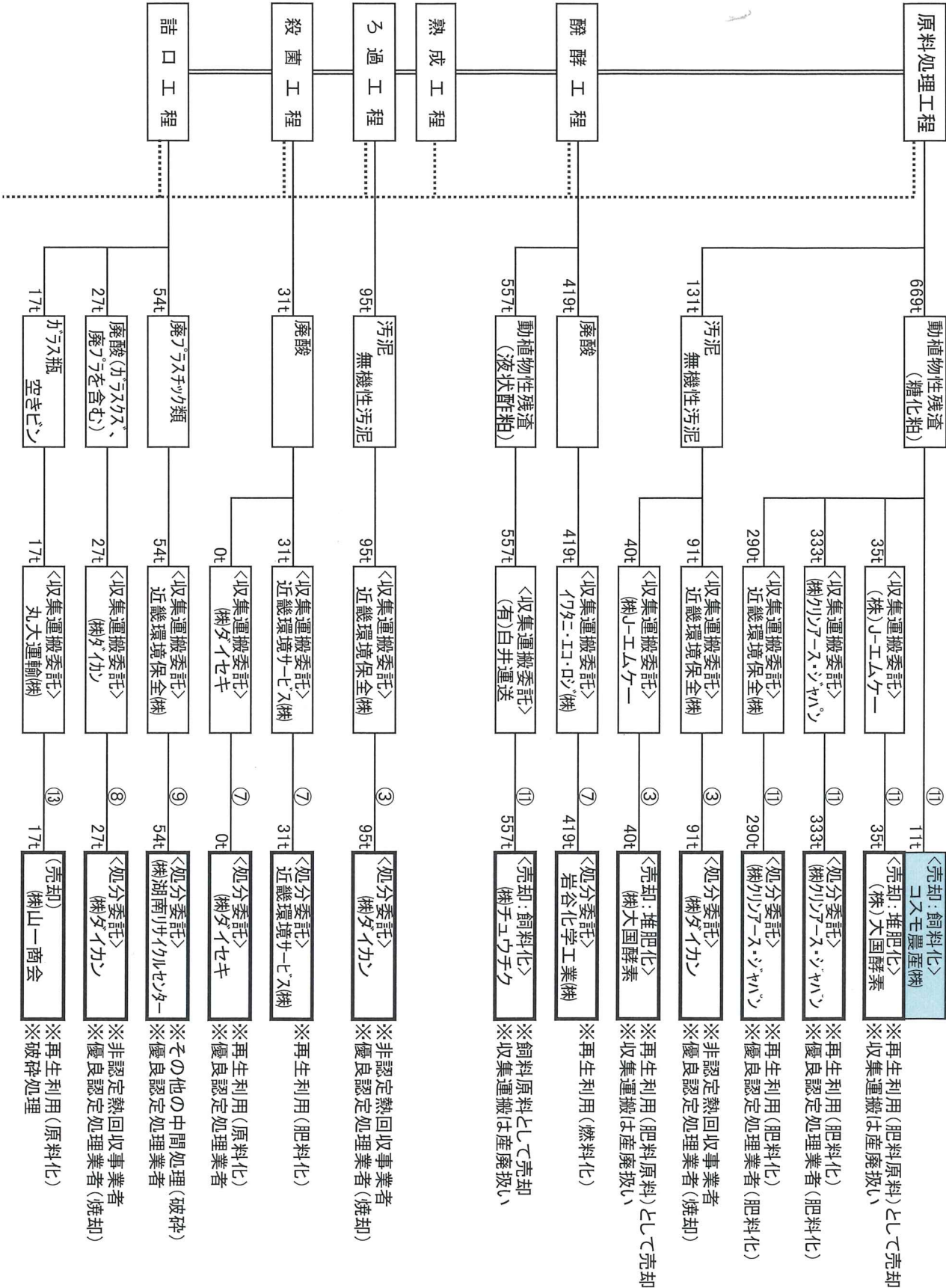
【産業廃棄物発生及び処理フロー】

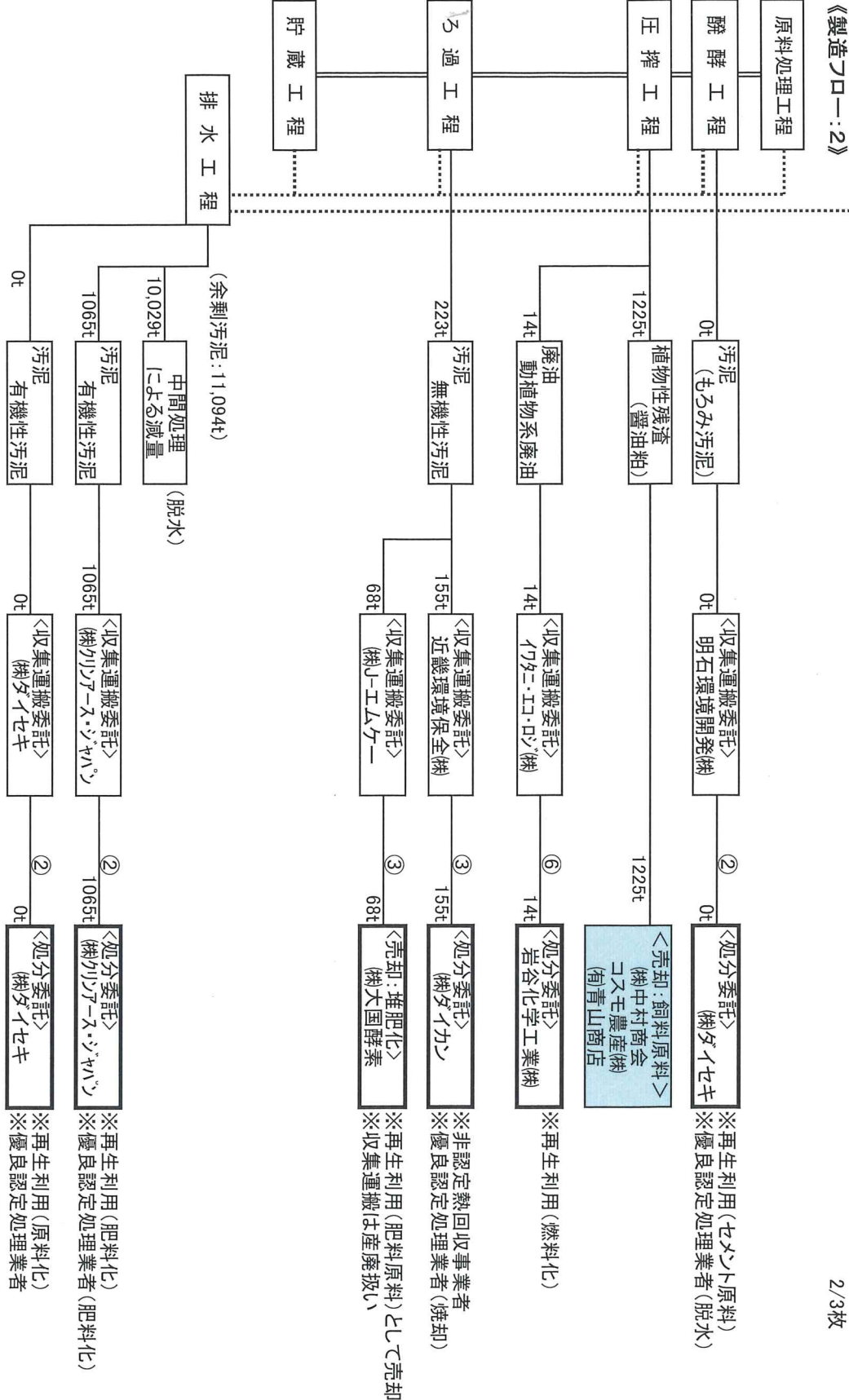
(株)Mizkan 大阪工場

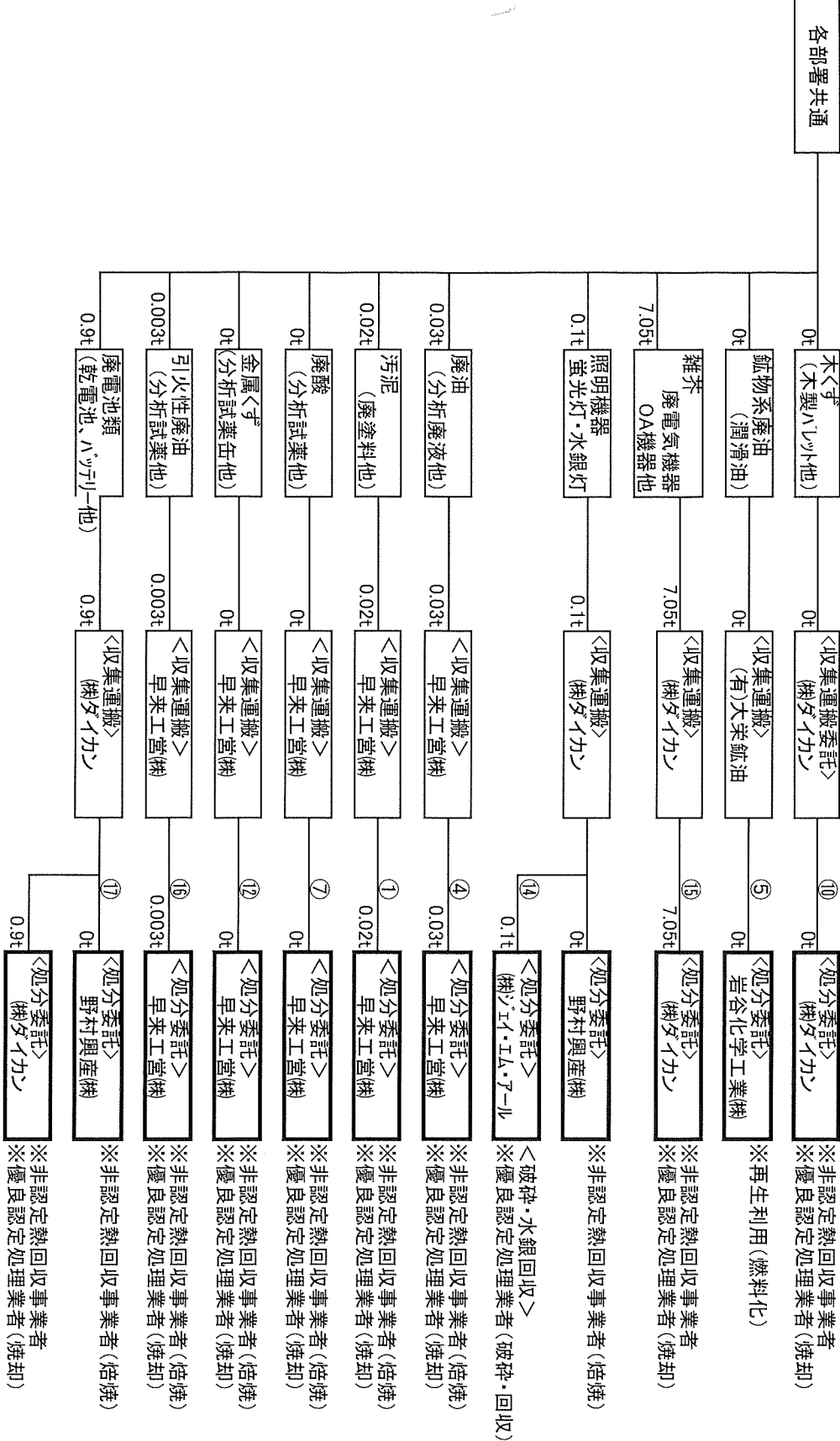
《製造フロー：1》

《産業廃棄物の種類》

※No.は集計シートの種類番号
※数字は2022年度実績(t)
：産廃ではないので報告不要
《産業廃棄物処分方法》







今年度【令和5年度】目標

提出者						
住所	名称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
〒573-0137 大阪府枚方市春日北町五丁目1番1号	株式会社Mizkan 大阪工場			072-858-0331	072-859-5863	

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況																		②＋⑧ 自ら再生利用 を行った量(t)	③＋⑨ 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った量
		①排出量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自己直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した (t)	⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残さ量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)	⑩直接及び自ら 自己処理した後の 処理委託量 (t)	(⑩＝ ①－②－③－④＋⑥－⑧－⑨ ＝⑫＋⑬＋⑭＋⑮＋⑯)						⑪優良認定処理業者 への処理委託量(t)			
コード	名 称											委 託 先 に よ る 区 分		⑫再生利用業者への 処理委託量(t)	⑬熱回収認定業者 への処理委託量(t)	⑭熱回収認定業者以外の 熱回収業者への処理委託量(t)	⑮その他の中間処理 委託量(t)	⑯埋立処分委託量(t)			
コード 参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前の量	④の量のうち熱回収を行った量	自ら中間処理を行った後の量	④の量から⑥の量を差し引いた量	⑥の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量	⑥の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量	中間処理及び最終処分を委託した量	⑩の量のうち、処理業者への再生利用委託量(⑬、⑭除く)	⑩の量のうち、認定熱回収施設外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑩の量のうち、認定熱回収施設外 の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑩の量のうち、委託 破砕等の中間処理した量(⑫～⑭を除く)	⑩の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量	⑩の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	②の量と⑧の量を合計したもの(自動計算)	③の量と⑨の量を合計したもの(自動計算)		
0200	①汚泥	0									0						0	0	0		
0210	②有機性汚泥	11,458			11,458		1,100	10,358			1,100	1,100				1,100	0	0	0		
0220	③無機性汚泥	445									445	350		95		95	0	0	0		
0300	④廃油	0									0						0	0	0		
0311	⑤鉱物性廃油	0									0						0	0	0		
0312	⑥動植物系廃油	15									15	15					0	0	0		
0400	⑦廃酸	490									490	490					0	0	0		
0400	⑧廃酸(ガラスくず、 廃プラ含む)	25									25		25		25		25	0	0		
0600	⑨廃プラスチック	55									55				55		55	0	0		
0800	⑩木くず	1									1			1			1	0	0		
1000	⑪動植物性残渣	1,255									1,255	1,255					620	0	0		
1200	⑫金属くず	0									0						0	0	0		
1300	⑬ガラスくず	20									20	20					0	0	0		
2522	⑭照明機器(蛍光灯)	0									0						0	0	0		
3100	⑮廃電気機械器具	7									7			7			7	0	0		
7000	⑯引火性廃油	0									0						0	0	0		
																		0	0		
																		0	0		
																		0	0		
																		0	0		
合計		13,771	0	0	11,458	0	1,100	10,358	0	0	3,413	3,230	0	128	55	0	1,903	0	0		

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

今年度【令和5年度】目標

提出者						
住所	名称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
〒573-0137 大阪府枚方市春日北町五丁目1番1号	株式会社Mizkan 大阪工場			072-858-0331	072-859-5863	

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況																	②＋⑧ 自ら再生利用 を行った量(t)	③＋⑨ 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った量
		①排出量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自己直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した (t)	⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残さ量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)	⑩直接及び自ら 自己処理した後の 処理委託量 (t)	(⑩＝ ①－②－③－④＋⑥－⑧－⑨ ＝⑫＋⑬＋⑭＋⑮＋⑯)					⑪優良認定処理業者 への処理委託量(t)			
コード	名 称											⑫再生利用業者への 処理委託量(t)	⑬熱回収認定業者 への処理委託量(t)	⑭熱回収認定業者以外の 熱回収業者への処理委託量(t)	⑮その他の中間処 理委託量(t)	⑯埋立処分委託量(t)				
コード 参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前の量	④の量のうち熱回収を行った量	自ら中間処理を行った後の量	④の量から⑥の量を差し引いた量	⑥の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量	⑥の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量	中間処理及び最終処分を委託した量	⑬の量のうち、処理業者への再生利用委託量(⑬、⑭除く)	⑬の量のうち、認定熱回収施設外 の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑬の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑮の量のうち、委託して破砕等の中間処理した量(⑮～⑯を除く)	⑯の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量	⑯の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	②の量と⑧の量を合計したもの(自動計算)	③の量と⑨の量を合計したもの(自動計算)	
0200	①汚泥	0									0						0	0	0	
0210	②有機性汚泥	11,458			11,458		1,100	10,358			1,100	1,100					1,100	0	0	
0220	③無機性汚泥	445									445	350		95			95	0	0	
0300	④廃油	0									0						0	0	0	
0311	⑤鉱物性廃油	0									0						0	0	0	
0312	⑥動植物系廃油	15									15	15					0	0	0	
0400	⑦廃酸	490									490	490					0	0	0	
0400	⑧廃酸(ガラスくず、廃プラ含む)	25									25			25			25	0	0	
0600	⑨廃プラスチック	55									55				55		55	0	0	
0800	⑩木くず	1									1			1			1	0	0	
1000	⑪動植物性残渣	1,255									1,255	1,255					620	0	0	
1200	⑫金属くず	0									0						0	0	0	
1300	⑬ガラスくず	20									20	20					0	0	0	
2522	⑭照明機器(蛍光灯)	0									0						0	0	0	
3100	⑮廃電気機械器具	7									7			7			7	0	0	
7000	⑯引火性廃油	0									0						0	0	0	
																		0	0	
																		0	0	
																		0	0	
																		0	0	
合計		13,771	0	0	11,458	0	1,100	10,358	0	0	3,413	3,230	0	128	55	0	1,903	0	0	

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。